

西田：さあ今月も始まりました、ITESの一言ラジオ！

永田：今月で第4回ですよ！浸透しつつあるのか、少し反響がありました！

西田：読者がいるということは続けるモチベーションにもなるね！前は「予防保全」について、気づく姿勢の大切さを学びましたね。

永田：はい！機械も人と同じように、小さな変化に気づけるかが重要なんだと実感しています！

西田：よし、その調子！それじゃあ今回は、保全や修理の現場でよく聞く「置き換え修理」について話してもらおうか。

永田：毎月のことですけど、結構無茶ぶりですよね・・・(笑)

西田：まあとにかくやってみよう(笑)！



【置き換え修理って?】

永田：置き換え修理というのは、「古くなった部品を、現行の別の製品に置き換えて修理すること」です！

製品が、修理できない状態や、廃番になってしまったときに必要となる方法で、昔の型番が手に入らない場合でも、動作互換のある後継品や別メーカーの代替品で復旧させることができます。

西田：そっだね。設備は10年、20年と使っけれど、部品はそれほど長くは作られないんだ。だから「代わりに使えるものをどう選ぶか」が非常に大事になってくるんだ！

永田：実際に学んで驚いたのは、ただ見た目や形が同じなら交換できるわけじゃないということですよ！

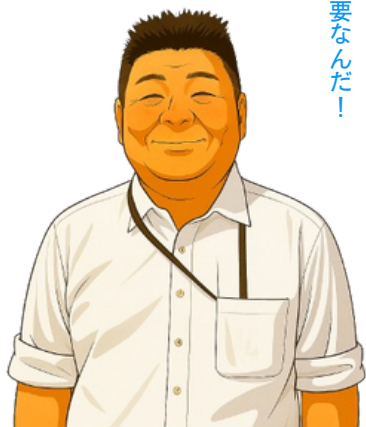
置き換え修理で注意すべきポイントは、主にこのあたりだと学びました：

- ・ 電氣的互換性 (電圧・電流・絶縁など)
- ・ 動作仕様の一致 (ON・OFF特性、速度、応答性など)
- ・ サイズや取り付けピッチ
- ・ 周辺機器との相性

日常生活でいうと、電球がLEDに換わっているように、見た目が似ていても使えるかどうか、サイズや電力、仕様についても確かめないといけない、ということでしょうか。

西田：その例えはいいね！最終的には、動くことが目的だから、互換性チェックはとても重要なんだ！

「ここを間違えると、動かないどころか機器を壊してしまっところもあるからとても重要なんだ！



【置き換え修理のポイント】

永田：置き換え修理が現場で増えている理由として、機器の製造終了や部材の入手困難な状況をととても実感しています。

西田：そう、だからこそ「いま手に入るもの」でどう復旧させるかがとても重要なんだね！

永田：部品が廃番になるのは避けられないこと。でも、そこで諦めるのではなく、「代わりに何が使える?」という視点に切り替えることで、現場の可能性が広がると気づきました！

置き換え修理は、設備の延命だけでなく、「現場の未来をつくる」ことにもつながるんですね。

西田：その気づき、とてもいいね。置き換え修理は、知識と経験がかけ合わさって初めて成功するもの。今回の学びが、永田さんの営業としての技量が広がったね！

CRTモニターの置き換え

西田：さて今回は、CRTモニター(ブラウン管)の置き換えについては話してみよう！

永田：えっ?ブラウン管なんて、まだ使われているんですか?部品がなくて修理できないのでは・・・?

西田：工作機械など30年以上前の機械はまだだ現役で、修理できないからこそ、今手に入るもので直す技術が重要なんだ。

信号を変換したり、サイズ調整したり、工夫は必要だけど、アイテスではこれまでも150件以上の置き換え実績があるんだ！

今回は、具体的にどんな方法でCRTを復旧させるのか、実例を交えて紹介しよう。

永田：はい！しっかり準備します！

次回のテーマ

今日の一言

置き換え修理は、現場の未来をつくる無限の可能性を秘めている！